

市民会議・金融機関会議での御意見と具体的な施策 対応表

資料6

市民会議・金融機関会議での御意見	基本目標	主な施策	具体的な施策
<p>静岡県立大学の学生は4～6割が静岡県民で、静岡県に愛着を持っていると感じる。静岡県は住みやすく、居心地が良いと感じていると思うので、島田市の取組を積極的に行っていたら若者の人口流出も減るのではないかなと思う。</p> <p>女性の若者の転出について考えていたが、若者世代はデジタル化していることが当たり前になっており、将来住むところはデジタルで行政サービスを受けられる市町があれば、当然そちらを選ぶ。</p> <p>いかにデジタル化が進んでいるかは、若者が住むところを選ぶときに大きな理由になるため、デジタルの施策が進めばよいと考える。</p> <p>相続の関係で、相続人の方が県外にいるため大きなお金が県外に出て行ってしまふということがある。地方創生の取組で、若い世代が島田市に残ってくれるようになれば助かるので、他人事ではない事業として感じており、協力していきたい。</p>	<p>デジ田総合戦略 全般</p>	<p>デジ田総合戦略 全般</p>	<p>○デジ田総合戦略に記載する施策全般に記載しています。</p>
<p>人口が減少していく中で、新たな企業を誘致するといった場合、新たな雇用を生むということは、なかなか人口減少もあり難しいと思う。</p> <p>人口を維持するという観点において、働く場所を多く作るのが重要である。 企業誘致は積極的に行っていくべき 島田の企業を立地したいが場所がなく探しているという状況である。 企業誘致・造成を積極的に進めて働ける場所をつくり、ひと・しごとが成り立っていけるようにしていただきたい。</p>		<p>高速交通網の拠点で稼ぐ</p>	<p>新東名高速道路島田金谷インターチェンジ周辺のまちづくり ○新東名島田金谷インターチェンジ周辺に、牛尾山地区をはじめとする企業向け用地の整備を進め、地域の雇用を生み出す新たな産業の場を創出する。</p>
<p>NPO法人で抜里においてゲストハウスを営業しているが、コロナ禍が明けたこともあり、夏は宿泊客が多い。 観光事業ではあるが、人が来ることで中山間地域のまちづくりの推進になっていく。そこで農業体験もできるため、将来的に就農者になる可能性もあり、これが農業施策にもつながっていく。 包括的にできるようなプロジェクトが実践されていくと良い。</p>			<p>ニューツーリズムや歴史・文化資源を生かした新たな観光の推進 ○農林家民宿をはじめとする中山間地域の地域資源を生かしたグリーンツーリズムを推進する。</p>
<p>観光消費単価は多少上がっているが、光熱費やガソリン代を中心とした物価の高騰もある。財布の紐を緩めるのは難しいと思うが、知恵を絞っていかなければならないと思っている。</p>	<p>【基本目標1】 日本で、世界で、 稼ぐ産業の創出</p>	<p>まちの魅力を生かして、 戦略的な観光で稼ぐ</p>	<p>戦略的な観光の振興及び広域観光連携の充実・強化 ○観光戦略プランの推進にあたりデジタルマーケティングを導入することで、実需につながるターゲットの設定、ターゲットの属性に合わせた情報の発信、来訪を促すプランニングや消費を喚起する商品の開発、さらに商品や宿泊施設等の予約・購入が可能なECサイトの基盤提供などの取組を効果的、効率的に進め、「観光で稼ぐ地域」の実現を図る。 など</p>
<p>農協は農業に関わっており、新規就農というところで協力をしていきたいと考えている。耕作放棄地や農地転用の関係などがスムーズにできるようになっていけば、違うものが見えてくるものと感じている。</p>		<p>新たな付加価値による農 林業で稼ぐ</p>	<p>次の世代につながる農業の推進 ○農業における人手不足をはじめとする課題を解決するため、スマート農業の導入を促進し、省力化や戦略的な生産を目指す農業者を支援するなど、就農のハードルを下げることに繋げていく。</p>
<p>商工会もデジタル化については、独自で施策やサポートを行っている。 国が進めているように、デジタル化によって人口が減っていく中で、機械に任せられることをいかに任せていくか。人間は機械に任せられない施策を考えたり、運営したりしていくことに尽きる。</p>		<p>地域産業の競争力を高め て稼ぐ</p>	<p>企業のDXやGXの取組促進 ○デジタルトランスフォーメーション（DX）の概念とその優位性への理解をあらゆる産業へ広め、労働生産性の向上に視点を置きつつ、官民のデータ連携や業務活動データの収集・分析により、生産活動の高度化・効率化を図るほか、新たなサービスの創出へとつなげる。 ○デジタルシフトを行う中小企業者等を支援する。</p>
<p>デジタル田園都市国家構想総合戦略が国から発表されたが、令和4年6月から島田市と協定結んで、地域産業活性化にむけたDX構想に取り組んでいる。 デジタル化によって、企業の課題を解決していこうというもののだが、中小企業は人手不足が深刻な問題となっている。 それをデジタル化によりカバーしていこうというものである。</p>			

市民会議・金融機関会議での御意見と具体的な施策 対応表

資料6

市民会議・金融機関会議での御意見	基本目標	主な施策	具体的な施策
<p>ハローワークの事業には、後継者不足で企業が事業をやめていくという中で、代替わりするときのためのデジタル化や、学び直しのための助成金制度の推進など、能力・技術を身に付けられない人の後押しをしているものもある。 ハローワークからも、地域に発信をし、商工会議所等のネットワークと連携しながら、国の施策の情報を中小企業や小規模企業に届けて活用していただいて、少しでもデジタルの推進につなげていきたい。</p>	<p>【基本目標1】 日本で、世界で、稼ぐ産業の創出</p>	<p>地域産業の競争力を高め て稼ぐ</p>	<p>企業のDXやGXの取組促進 ○デジタルトランスフォーメーション（DX）の概念とその優位性への理解をあらゆる産業へ広め、労働生産性の向上に視点を置きつつ、官民のデータ連携や業務活動データの収集・分析により、生産活動の高度化・効率化を図るほか、新たなサービスの創出へとつなげる。 ○デジタルシフトを行う中小企業者等を支援する。</p>
<p>市民意識調査のアンケートは大変興味深いのが、60歳以上の回答が多いと感じる。60歳以上の意見が大きくなってしまったため、定住化は当たり前になってしまう。30歳から40歳までの意見が集められればもっとよいと思う。島田市民は島田愛が強く、今は離れているが島田市に帰ってきたいという30代から40代までの方は多いので、そういったところに根差した活動を続けていただきたい。</p>		<p>移住・定住の促進</p>	<p>定住化の促進 ○本市の居住環境を広くPRするほか、起業や就業、就農支援、子育て支援、また、地方創生テレワークなど移住希望者の相談に幅広く対応できる相談窓口機能を設ける。 ○移住体験ツアーの実施や移住定住ポータルサイト「住んでご島田」の情報を充実させることにより、本市に移住する魅力を発信するとともに、デジタルマーケティングを活用し、ターゲットに向けた効果的かつ的確なPRを行うことにより、移住・定住を促進する。 など</p>
<p>焼津市はふるさと納税に力を入れており、アンケートでもふるさと納税に関わるものが多かった。企業もふるさと納税の関係で仕事が増えた。それに伴う雇用も増やした。市からしても財政がうるおい、企業も仕事が増えるのでWin-Winの関係を築ける。島田市もふるさと納税に力を入れていると思うが、企業立地も推進しつつ、今の企業を大事にするということを踏まえて施策に盛り込まれているか伺いたい。</p>			<p>関係人口の創出・拡大 ○ふるさと寄附金をきっかけとして、島田市を応援したい人の想いを受け入れていく。</p>
<p>評価書で「島田市が好きな市民の割合」が上昇しているということだが、「都市の魅力度」は伸び悩んでおり、「島田市緑茶化計画の取組について知っている」と答えた市民の割合も下がってきている。</p>			
<p>島田市が取り組んでいるLINEについて、島田市の人口以上の登録があるということで、焼津や藤枝の方も登録しており、非常に効果的なことをされたと思っている。 島田市からの情報がリアルタイムに入ってきて便利と感じている。 これから総合戦略を見直すときに、LINEをより高度な、素晴らしいものにしていただきたい。</p>	<p>【基本目標2】 島田市とつながり、 住み、好きになる</p>		<p>シティプロモーションの推進</p>
<p>デジタル化をする中で、高校生、大学生に向けたイベントの取組を情報発信すると、地域にずっと残ってくれる学生が増えるのではないと思う。</p>			<p>○「島田市緑茶化計画」というブランドコンセプトをデジタルとアナログを効果的に活用して市外向けに発信し、シティプロモーションを推進する。 ○市民、事業者、行政の間で本市の「島田市緑茶化計画」というブランドコンセプトを定着させるとともに、連携して魅力を発信するためのコンテンツを開発する。</p>
<p>デジタル化については、FMはラジオで聞くというイメージがあるが、実際にそういった方は少なく、車のラジオで聞いたり、意外とスマートフォンで聞けるということを知らなかったり、知っていたとしても、どうやって聞くのかを知らない方が多い。 簡単な方法としては、島田市のLINEにメニューがあるので、そこからぜひ聞いていただきたい。 伊久美や川根などラジオの電波が入らない地域があるので、危機管理の関係から危機管理課の会議に同席させていただき、スマートフォンで聞けるということをPRしていただきたい。</p>		<p>シティプロモーションによる まちの魅力創造</p>	<p>○広報紙やテレビ、ラジオ、新聞、各種SNS等の各種媒体を活用した広報活動を行い、島田市の情報を市内外に発信することにより、シビックプライドの醸成を図る。 ○デジタルマーケティングの手法を生かし、ターゲットの設定やターゲットの属性に合わせた多様な情報発信ツールにより、効果的なシティプロモーションを展開する。</p>
<p>子育て世帯のお母さんからは恵まれているという話を聞くと、市外の方にも子育てしやすいまちというところを認識していただいているかは疑問である。そういったことに力を入れているのであれば、長泉町のようにPRして、ぜひ島田市で産みたい、育てたいとなるインセンティブをアピールした方がいいのではないかと。</p>			
<p>HP閲覧率が上昇しているとのことだが、島田市のHPは情報が入ってくるのが早く、災害や気象情報など、いち早く対応いただいていると感じている。こういった情報は市民の安心につながる。</p>			

市民会議・金融機関会議での御意見と具体的な施策 対応表

資料6

市民会議・金融機関会議での御意見	基本目標	主な施策	具体的な施策
<p>中学生のときに地域の祭のボランティアの募集というものはあまりなかった。しかし、島田市において今年の春頃に地域の祭で年配、子育て世帯、子どもたちの交流の場があった。そこでは笑顔があり、家族で楽しめていたのが素晴らしいと感じた。そういったものがあると、先輩方からの意見を聞いたり、子どもが楽しんで交流ができたりするため、将来目指すものを見つける場としても良いと思う。島田市は学生もボランティアとして動きたいと思える市であると感じているので、そういった施策が増えていくと良いと思う。</p> <p>D Xの取組について高校生の発表会の機会を来年2月に設けさせていただいた。市内3校に出席表明をいただいている。高校生を交えたD Xの取組をしていきたいと思うので、報告させていただく。</p> <p>秋に向けて市内の高校生とイベントを企画している。積極的に参加していただけており、ひと昔前に比べると学生の意識の変化が感じ取られるくらい、すごいと感じている。これはこれまでの施策のおかげと考える。この会議にも出席していただいていることは素晴らしいことだと思うので、ぜひ継続していただきたい。</p> <p>高校生に出てもらうFM島田の番組を増やしていきたいと考えている。</p> <p>来年4月にふじのくに国際高校が開校する。この学校の教育方針として、探究学習を推し進め、これを学びの柱として、県の探究モデル校にもなっている。具体的には、島田市や静岡大学との共同的な学習を進めていくということで、本当に心強く思っている。暗記をしていくのではなく、自分で課題を見つけてその課題に対して主体的に解を求めていく。そういった学びがこれからの社会に必要なようになっていく。そういったところから地域や経済界との協働が生まれて、市内の就職の推進が進んでいくことがあるのではないかと考えている。</p>	<p>【基本目標2】 島田市とつながり、住み、好きになる</p>	<p>地域を支える人材育成、多様な主体との連携</p>	<p>多様な主体と協働・連携した地域を支える人材育成</p> <p>○市内5高等学校、3経済団体と締結した包括連携協定を基に、高校生が地域の魅力を感じ、市内企業を知ってもらうことで、島田の未来を担う人材を育成する。 ○高校生が地域のことを知り、自分たちができることを考え、主体的に地域と関わり、地域に愛着を持てるような学習機会を官民一体となって提供し、この地域に新しい価値を創造する人材の育成につなげる。</p>
<p>市民意識調査の「現在、結婚していない理由は何ですか。」という設問について、「結婚したいと思える相手がない」が31.1%で最も多いこと、また、「何歳までに結婚したいですか。」という設問について、「41歳以降」が26.5%となっていることについて、理由はあると思うが参考になった。</p> <p>小中学校においてもG I G Aスクール構想により、小中学校には1人1台の端末がある。市の協力により小学校にも高速通信回線が整備され、端末を1つの文房具として活用しながら、新しい自己調整型の学びをしている。デジタル田園都市構想総合戦略の中で、子どもたちも効率的・効果的に端末を使いこなしていけるよう、学校の中でも指導していくが、皆さんの力をお借りしながらつながっていければよいと思う。</p> <p>学校に見学に行くことがあったが、子供たちが普通にタブレットを使って授業を受けている。それを見たときに隔世の感があると衝撃に似たような感想を持った。若い方にとって、デジタル化は当たり前。小中学校からタブレット使って授業をしている。そういった方がこれから地域を支えていくことになると、デジタル化は彼らにとって当たり前のものである。</p> <p>I C T教育やタブレットの話があったが、教育に携わる人間が受け持つ部分も大きいと考える。</p>	<p>【基本目標3】 結婚、妊娠、出産し、子どもをまんなかに子育てする</p>	<p>結婚するきっかけづくり</p> <p>豊かな心と夢や目標をもった子どもを育てる</p>	<p>出逢いの場づくりの支援</p> <p>○島田市結婚支援ネットワークにおいて、各団体が実施するイベントへの協力や情報共有・情報発信等を行う中で、出逢いの機会づくりを支援する。 ○ふじのくに結婚応援協議会との連携を図り、ふじのくに出会いサポートセンターへの会員登録促進、イベント等の情報提供を行う。</p> <p>子どもが主体となる学習の推進</p> <p>○小中学校におけるI C T環境の整備を行うとともに、デジタル技術を効果的に活用し、教職員の業務の効率化を図る。 ○子供たちをとりまく社会情勢の変化を捉え、グローバル化に対応する外国語教育の充実を図るとともに、1人1台端末やI C T支援員を活用した情報活用能力の育成を推進する。</p>

市民会議・金融機関会議での御意見と具体的な施策 対応表

資料6

市民会議・金融機関会議での御意見	基本目標	主な施策	具体的な施策
<p>「誰もがデジタルの力で快適に暮らすための取組の推進」については、教育関係としては大事なことだと思っている。</p> <p>岸田総理は、「誰一人取り残されず全ての人がデジタル化のメリットを享受できる心豊かな暮らしを実現する」と発言しているが、言葉では簡単だが、「誰一人取り残されず全ての人がデジタル化のメリットを享受できる」ようにするというのは、なかなか大変なことである。</p> <p>児童生徒の自己肯定感を高めるには、多様な体験をすることが非常に重要であり、乗り越える経験を通して、達成感や成就感を得ていく。</p> <p>その体験は成功もあれば失敗もあると思うが、そこから自分のよさ、友達のよさ、自分の頑張りや人と関わることのよさを感じることができる。</p> <p>子どもが主体的に関わっていくことで自己肯定感を高めていく。</p> <p>文化、歴史、職業など、体験的な学びは学校の中だけでなく地域に出て行って、皆さんの力を借りながら生の体験ができればと思っている。</p> <p>小学生、中学生のときに農業体験などをさせてもらったが、自分で様々なものに触れることができたのは貴重な経験になっているので、広くそういったものをPRしていけば、自発的な体験が増えていくと思う。</p> <p>来年4月にふじのくに国際高校が開校する。</p> <p>この学校の教育方針として、探究学習を推し進め、これを学びの柱として、県の探究モデル校にもなっている。</p> <p>具体的には、島田市や静岡大学との共同的な学習を進めていくということで、本当に心強く思っている。</p> <p>暗記をしていくのではなく、自分で課題を見つけてその課題に対して主体的に解を求めている。</p> <p>そういった学びがこれからの社会に必要なようになっていく。</p>	<p>【基本目標3】</p> <p>結婚、妊娠、出産し、子どもをまんなかに子育てする</p>	<p>豊かな心と夢や目標をもった子どもを育てる</p>	<p>子どもが主体となる学習の推進</p> <p>○小中学校におけるICT環境の整備を行うとともに、デジタル技術を効果的に活用し、教職員の業務の効率化を図る。</p> <p>○子供たちをとりまく社会情勢の変化を捉え、グローバル化に対応する外国語教育の充実を図るとともに、1人1台端末やICT支援員を活用した情報活用能力の育成を推進する。</p> <p>多様な体験活動の充実</p> <p>○地域人材や地域資源の活用により、自然体験や文化体験、職業体験等をはじめとする地域愛を育む教育活動を展開していく。</p> <p>○学校の特色を生かした魅力ある教育活動を展開する。</p> <p>○ふじのくに国際高等学校と連携し、探究的な学び、外国語活動などを通して、世界的視野に立つ児童・生徒の資質・能力を育む国際バカロレア教育を推進する。</p>
<p>昨年から豪雨災害が発生している。広報・アプリで周知いただいていると思うが、河川の氾濫や山間部の土砂崩れなど、郊外における対策が必要になると考える。災害対策本部は市民に発信ができる機能を持つと思うが、雨が降っていると広報が聞き取りにくいので、山間部の方や高齢の方への情報伝達として、自宅の中でも広報が聞き取れるようなデジタルの仕組み（昔の黒電話に有線が付いていて、情報を受けることができていた）があれば、災害時の情報伝達に格差がなくなると考える。災害時についての心配が高まっていると思うので、デジタルの機能を使ってみてはいかがかと考える。</p>	<p>【基本目標4】</p> <p>水と緑に囲まれた持続可能な暮らしやすいまちづくり</p>	<p>未来に向けたまちづくりの推進</p>	<p>災害等から生命と暮らしを守る体制の整備</p> <p>○あらゆる危機事態に的確な対処ができるよう体制の維持を図るとともにデジタル技術を活用して災害情報等の迅速な処理・周知を行い危機対応能力の向上を図る。</p> <p>○特に受け手側の特性実情に応じた情報伝達機能強化やドローン、デジタル情報を活用した災害情報の收受・処理・共有の仕組みづくりを進める。</p>
<p>デジタル化についていけない人もいる。</p> <p>地域のデジタル化についてサポートし、若い世代の方々に追いつくことが必要なこと。</p> <p>自分自身もマイナポイントの申請において自分すら苦労したので、自分よりも上の世代は無理ではないかと感じた。</p> <p>中小企業、零細企業は高齢の方も多いため、デジタル化のサポートは大切な事業になっていくという感想を持った。</p> <p>岸田総理は、「誰一人取り残されず全ての人がデジタル化のメリットを享受できる心豊かな暮らしを実現する」と発言しているが、言葉では簡単だが、「誰一人取り残されず全ての人がデジタル化のメリットを享受できる」ようにするというのは、なかなか大変なことである。</p> <p>収入格差やデジタル化によって追いつけなくなる人に対する、スマホ講座を考えているとのことです素晴らしいと感じている。</p>	<p>【基本目標4】</p> <p>水と緑に囲まれた持続可能な暮らしやすいまちづくり</p>	<p>誰もが快適で暮らしやすい地域づくり</p>	<p>誰もがデジタルの力で快適に暮らすための取組の推進</p> <p>○誰もがデジタル社会に取り残されることなく、豊かな生活を送ることができるよう、デジタルリテラシー向上を目指す。</p>
<p>総合医療センターが完成したことも、市民の安心につながっていると思う。</p>	<p>【基本目標4】</p> <p>水と緑に囲まれた持続可能な暮らしやすいまちづくり</p>	<p>地域包括ケアの推進</p>	<p>島田市立総合医療センターにおける医療体制の充実</p> <p>○医療従事者の勤務環境の改善、良好な居住環境の維持、医学生・看護学生への修学資金制度の運用などにより、医師・看護師等の確保に努める。</p> <p>○急性期医療を担う病院として機能向上に努めるとともに、地域の医療・介護機関と連携した入退院支援体制を充実する。</p>